

6. 結 語

湿球を覆うガーゼが、塩分で汚染されるような環境で乾湿計を使用する際、何日目毎にガーゼを取り替えれば、評価される水蒸気圧が一定の誤差の範囲内におさまるかを、実験的に検討した。

誤差の大きさを1mbまで認めれば、約1ヶ月は交換せずすむし、それを0.5mb程度にとどめようとすれば2週間半毎に、もしそれを0.2mb程度にしようとするれば、毎週交換する必要があることが示された。

湿球部に付着する塩分組成は、海水のそれとは大分違うが、瀬戸内海でも、沖縄でもあまり変わらないことが判った。

謝 辞

最後に、塩分分析につき御指導頂き、装置の使用を許可された、岡山大学教育学部沼野忠之助教授に厚く御礼申し上げる。試料採取に便宜を供与された、当時飛鳥中学校校長坂本市松氏、採取と分析に尽力された現琴浦中学校教諭蓬正夫氏にそれぞれ謝意を表する。

文 献

- 気象庁, 1971: 地上気象観測法, 日本気象協会, 64.
 文字信貴, 水間満郎, 1976: 風・温度・湿度及び乱流輸送量の測定, 気象研究ノート, 130, 28~31.
 中村玉樹, 1918: 湿球寒暖計に使用する水の不純なるがために其示度に及ぼす影響に就て, 気象集誌, 37, 26~30.
 Sahashi, K., 1974: Salt Amount Detected from the Gauze on the Wet-bulb Employed in the AMTEX '74, Scientific Report of the Third Study Conference, AMTEX Rep., No. 6, 78~81.
 佐橋 謙, 花房竜男, 文字信貴, 塚本 修, 光田 寧, 1977: 乱流計測器の国際比較観測 (I) — ITCE '76 —, 1977年度日本気象学会春季大会演講予稿集, 161.
 Sverdrup, H.U., M.W. Johnson and R.H. Fleming, 1952: The Oceans, Prentice Hall, Inc., NY, 115.



読売新聞解説部編

異常気象と食糧危機のすべて

国際商業出版, 1977, B 6版, 279頁, 950円。

食糧危機が叫ばれ、ビアフラで餓死者が出たという話を聞いても、我々多くの者はまだ他人事としか受けとめていない。米国民が一週に一度ハンバーガーを節約すると、1200万トンの穀物が節約でき飢えに苦しむインドやバングラディッシュの不足を埋められると言われるが、動物性の食糧を生産するには凡そ10倍の穀物を必要とするからであろう。現在の食糧需給の状況は急速に変化しつつある。ソ連のような大きな人口を持つ国がその生活程度を向上してゆくことは、世界の人口の増加以上に食糧を必要とする。1972年の寒波で、ソ連は大量の小麦を米国から輸入せざるを得なくなったように、気象異常

は食糧をたちまちにして不足の危険に転じ得ることが分かってきた。

気象学者の間で地球の気象異常に警鐘を鳴らす人が増えている。もし、異常気象が続きそれが通常の気象になったら、地球はとても現在の人口を養ってゆけないだろう。自国で十分食糧をまかなえる国はよいが、特に日本のように大量の食糧を輸入に頼っている国では早急に対策を立てる必要がある。中国では食糧の自給体制を達成すべく建設を進めているが、国土の割に小さい耕地面積から食糧の増産には限度があり、8億の人口を養うためには増産と共に人口の抑制を徹底して実施している。

日本の食糧も、家畜の餌までを含めて考えると約60%の人口を賄う程度であり、開発途上国の人口爆発が世界的食糧需給に及ぼす影響を考えわが国の食糧政策も十分考えねばならない。

日本は先進国中最も自給率が低く、このままでゆくと、静止人口になるまでに今後3000万人以上は増加する人口をどうやって賄うかは大問題である。

(小平信彦)